

加賀市における公立病院改革プランの
実施状況の点検・評価

加賀市地域医療審議会

- 1 加賀市地域医療審議会の組織
- 2 加賀市地域医療審議会の目的
- 3 審議の経過
- 4 公立病院改革プランの実施状況の点検・評価
- 5 参考意見

1 加賀市地域医療審議会の組織（平成 22 年 10 月 21 日現在）

会 長	稲坂 暢	（加賀市医師会長）
副会長	柴田 裕行	（南加賀保健福祉センター所長） 当日欠席
委 員	上田 良成	（加賀市医師会議長）
委 員	富田 勝郎	（金沢大学附属病院長） 当日欠席
委 員	上出 栄雄	（加賀市議会議長） 当日欠席
委 員	林 俊昭	（加賀市議会議員） 当日欠席
委 員	三輪 邦彦	（市民代表〔公募〕）
委 員	丸谷 朱美	（市民代表〔公募〕）
委 員	末 一夫	（加賀市消防長）
委 員	関 雅博	（独立行政法人国立病院機構石川病院長）
委 員	嶋崎 正晃	（山中温泉医療センター管理者）
委 員	小林 武嗣	（加賀市民病院長）

2 加賀市地域医療審議会の目的

本審議会は、加賀市地域医療審議会条例第 1 条の規定に基づき、加賀市の地域医療の充実を図ることを目的とする。今回の審議会は、この目的に沿い加賀市病院事業改革プランの実施状況の点検・評価をおこなう。

3 審議の経過

● 会議

日時：平成 22 年 10 月 21 日（木）13 時 59 分～15 時 57 分

場所：加賀市民病院 講堂

■ 会議内容

- (1) 加賀市が開設する 2 病院の改革プランの実施状況について説明が行われ、意見が交わされた。

4 公立病院改革プランの実施状況の点検・評価

平成21年度の目標値については達成されたものもあるが、経常収支比率を始めとして目標値に届かなかったものも多くある。救急医療患者の受入による収益の増加等により、経営改善に努めていただきたい。しかしながら、勤務医の負担の軽減を図らなければ、医師の数は減少するであろうし、安定的・継続的に良質の医療が提供できなければ市民の支持も得られない。現状でも行えることとして、加賀市民病院と山中温泉医療センターの交流を行い、力を併せて協調していくことにより、信頼される魅力ある病院づくりを行なっていただきたい。また平成19年3月の答申による「二次救急医療を担い、医療設備の充実した新病院の建設」については、人的物的両面での集約に重点を置いて進めていかれない。

5 参考意見

- (1) 時間外の患者を受けることが入院患者を増やす一番の近道であろう。加賀市民病院については、救急患者をもう少し多く受け入れる努力をされたい。
- (2) 救急の受入について一生懸命取り組まれていることは判るが、市民のほうまで伝わってこない。クチコミで評判が立つような状況になればよいと思う。
- (3) 軽症患者の救急受診や救急車の適正利用について、不適切な利用はだんだんと少なくなはってきている。
- (4) 加賀市民病院と山中温泉医療センターでの、救急医療に関する連携と協調について進めてほしい。できれば石川病院も交えて考えてほしい。
- (5) 1次の患者が市外の病院に送られていることについて、市外の病院の先生から不満が出ていると聞く。とりあえず受け入れて診察するか搬送するかという体制にならないものか。
- (6) 多数の患者さんが市外の医療機関へ雇っていると聞く。例えば国保の税金を市外や県外へ払っているという状況は止めなければいけない。医師の増員を図り、勤務医の負担を軽減する方向に持っていかなければならない。
- (7) 医師が来たくなる環境、また加賀市出身の医師が帰って来る環境をつくるため「まちづくり」も必要である。
- (8) 病院は建物を造っただけでは出来ない。今から市民病院と医療センターが「人」の交流を実施していかないと、どんな形にしろ統合はできない。